

2017年3月期第2四半期決算実績と 今後の取り組み



2016年11月1日
西日本旅客鉄道株式会社

I . 2017年3月期 第2四半期決算実績	・・・	2
II . 2017年3月期 通期業績予想	・・・	11
III . 各事業の取り組み	・・・	18
IV . 設備投資計画、株主還元	・・・	28
V . 菱重プロパティーズ株式会社の株式取得	・・・	32

I . 2017年3月期 第2四半期決算実績

決算ハイライト

(単位: 億円)

	2016年3月期 2Q累計実績	2017年3月期 2Q累計実績	対前年		2016年3月期 通期実績	2017年3月期通期		対前年		対予想 増減
			増減	比率(%)		前回(7/27) 予想	今回(10/27) 予想	増減	比率(%)	
A	B	B-A	B/A	C	D	E	E-C	E/C	E-D	
【連結】										
営業収益	7,094	7,003	▲ 90	98.7	14,513	14,500	14,455	▲ 58	99.6	▲ 45
営業利益	1,105	983	▲ 121	89.0	1,815	1,755	1,730	▲ 85	95.3	▲ 25
経常利益	997	885	▲ 111	88.8	1,622	1,595	1,570	▲ 52	96.8	▲ 25
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	660	571	▲ 89	86.5	858	1,065	1,025	+166	119.4	▲ 40
【単体】										
営業収益	4,787	4,754	▲ 33	99.3	9,542	9,525	9,510	▲ 32	99.7	▲ 15
運輸収入	4,277	4,228	▲ 48	98.9	8,500	8,485	8,460	▲ 40	99.5	▲ 25
営業費用	3,882	3,940	+57	101.5	8,170	8,165	8,175	+4	100.1	+10
人件費	1,152	1,113	▲ 38	96.6	2,333	2,230	2,230	▲ 103	95.6	—
物件費	1,783	1,814	+31	101.7	3,924	3,905	3,905	▲ 19	99.5	—
動力費	227	206	▲ 21	90.7	441	420	410	▲ 31	92.9	▲ 10
修繕費	657	680	+23	103.6	1,528	1,530	1,540	+11	100.7	+10
業務費	898	927	+28	103.2	1,954	1,955	1,955	+0	100.0	—
減価償却費	631	664	+32	105.2	1,323	1,375	1,385	+61	104.7	+10
営業利益	904	813	▲ 90	90.0	1,372	1,360	1,335	▲ 37	97.3	▲ 25
経常利益	789	708	▲ 80	89.8	1,167	1,190	1,165	▲ 2	99.8	▲ 25
四半期(当期)純利益	534	469	▲ 65	87.7	611	820	780	+168	127.6	▲ 40

単体損益計算書

(単位: 億円)

	2016年3月期 2Q累計実績 A	2017年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益	4,787	4,754	▲ 33	99.3
運輸収入	4,277	4,228	▲ 48	98.9
その他収入	510	525	+15	103.0
営業費用	3,882	3,940	+57	101.5
人件費	1,152	1,113	▲ 38	96.6
物件費	1,783	1,814	+31	101.7
動力費	227	206	▲ 21	90.7
修繕費	657	680	+23	103.6
業務費	898	927	+28	103.2
線路使用料等	134	151	+16	112.5
租税公課	181	197	+15	108.7
減価償却費	631	664	+32	105.2
営業利益	904	813	▲ 90	90.0
営業外損益	▲ 115	▲ 105	+9	91.4
営業外収益	14	13	▲ 1	—
営業外費用	130	118	▲ 11	—
経常利益	789	708	▲ 80	89.8
特別損益	7	▲ 29	▲ 36	—
特別利益	58	43	▲ 15	—
特別損失	51	72	+20	—
四半期純利益	534	469	▲ 65	87.7

運輸収入の主な増減要因

(単位:億円)

		2017年3月期 2Q累計実績				
		運輸収入	対前年	主な増減要因		
新幹線		2,150	▲ 54 (97.5%)	基礎トレンド(100.4%)	+9	
				特殊 要因	熊本地震	▲ 27
					北陸新幹線開業反動	▲ 25
					曜日配列(シルバーウィーク等)	▲ 18
					インバウンド	+1
					シニアマーケット取り込み	+1
等						
在来線	近畿圏	1,529	+10 (100.7%)	基礎トレンド(100.0%)	▲ 0	
				特殊 要因	インバウンド	+5
					京都鉄道博物館	+1
					シニアマーケット取り込み	+0
					曜日配列(シルバーウィーク等)	▲ 3
	等					
	その他	548	▲ 3 (99.4%)	基礎トレンド(99.3%)	▲ 3	
				特殊 要因	曜日配列(シルバーウィーク等)	▲ 2
					インバウンド	+0
					シニアマーケット取り込み	+0
等						
在来線計		2,078	+6 (100.3%)			
運輸収入計		4,228	▲ 48 (98.9%)			

※荷物収入は金額些少のため省略

運輸収入と旅客輸送量の実績

運輸収入

(単位: 億円)

輸送人キロ

(単位: 百万人キロ)

	2Q累計実績(4/1~9/30)			2Q実績(7/1~9/30)		
	2016年 3月期	2017年 3月期	対前年	2016年 3月期	2017年 3月期	対前年
全社計	4,277	4,228	▲ 48 98.9%	2,218	2,195	▲ 23 98.9%
新幹線	2,205	2,150	▲ 54 97.5%	1,162	1,138	▲ 23 97.9%
定期	50	51	+0 100.3%	25	26	+0 103.0%
定期外	2,154	2,099	▲ 55 97.4%	1,137	1,112	▲ 24 97.8%
在来線	2,071	2,078	+6 100.3%	1,056	1,056	+0 100.1%
定期	717	720	+3 100.5%	356	354	▲ 2 99.2%
定期外	1,354	1,357	+2 100.2%	699	702	+3 100.5%
近畿圏	1,519	1,529	+10 100.7%	766	769	+3 100.4%
定期	587	591	+4 100.8%	292	290	▲ 1 99.5%
定期外	932	938	+5 100.6%	474	479	+4 101.0%
その他	551	548	▲ 3 99.4%	289	286	▲ 2 99.1%
定期	130	129	▲ 0 99.4%	64	63	▲ 1 97.8%
定期外	421	418	▲ 2 99.4%	224	223	▲ 1 99.4%

	2Q累計実績(4/1~9/30)			2Q実績(7/1~9/30)		
	2016年 3月期	2017年 3月期	対前年	2016年 3月期	2017年 3月期	対前年
全社計	29,526	29,281	▲ 245 99.2%	15,149	15,038	▲ 110 99.3%
新幹線	10,256	10,004	▲ 252 97.5%	5,439	5,345	▲ 93 98.3%
定期	409	415	+6 101.6%	202	205	+3 101.6%
定期外	9,846	9,588	▲ 258 97.4%	5,236	5,140	▲ 96 98.2%
在来線	19,270	19,277	+7 100.0%	9,709	9,692	▲ 17 99.8%
定期	11,746	11,733	▲ 13 99.9%	5,759	5,756	▲ 3 99.9%
定期外	7,523	7,544	+20 100.3%	3,950	3,936	▲ 13 99.6%
近畿圏	15,017	15,043	+25 100.2%	7,513	7,515	+2 100.0%
定期	9,625	9,616	▲ 9 99.9%	4,726	4,725	▲ 1 100.0%
定期外	5,391	5,427	+35 100.7%	2,786	2,790	+3 100.1%
その他	4,252	4,234	▲ 18 99.6%	2,196	2,177	▲ 19 99.1%
定期	2,120	2,116	▲ 4 99.8%	1,033	1,030	▲ 2 99.8%
定期外	2,132	2,117	▲ 14 99.3%	1,163	1,146	▲ 17 98.5%

単体営業費用の主な増減要因

(単位:億円)

科目	2017年3月期 2Q累計実績		
		対前年	主な増減要因
人件費	1,113	▲ 38 (96.6%)	・退職手当減▲35 等
動力費	206	▲ 21 (90.7%)	・燃料費調整額減等▲22 等
修繕費	680	+23 (103.6%)	・大規模改修引当金積立+20 等
業務費	927	+28 (103.2%)	・システム関連経費増+6 ・熊本地震関連+5 等
線路使用料等	151	+16 (112.5%)	・北陸新幹線固定資産税相当額増
租税公課	197	+15 (108.7%)	・事業税増+7 等
減価償却費	664	+32 (105.2%)	・山陽新幹線用車両 等
営業費用計	3,940	+57 (101.5%)	

連結損益計算書

(単位:億円)

	2016年3月期 2Q累計実績 A	2017年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益	7,094	7,003	▲ 90	98.7
営業費用	5,988	6,020	+31	100.5
営業利益	1,105	983	▲ 121	89.0
営業外損益	▲ 108	▲ 98	+9	90.8
営業外収益	23	22	▲ 0	-
営業外費用	131	121	▲ 10	-
経常利益	997	885	▲ 111	88.8
特別損益	5	▲ 38	▲ 43	-
特別利益	66	51	▲ 15	-
特別損失	61	90	+28	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	660	571	▲ 89	86.5
四半期包括利益	676	557	▲ 119	82.4

セグメント情報

(単位:億円)

	2016年3月期 2Q累計実績 A	2017年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益*1	7,094	7,003	▲ 90	98.7
運輸業	4,661	4,617	▲ 44	99.1
流通業	1,142	1,149	+6	100.5
物販・飲食	722	758	+36	105.0
百貨店	380	350	▲ 29	92.1
不動産業	533	504	▲ 29	94.5
ショッピングセンター	283	301	+17	106.2
不動産賃貸・販売*3	241	193	▲ 47	80.4
【分譲事業】	【94】	【40】	【▲ 53】	【42.7】
その他	756	733	▲ 23	96.9
ホテル	177	178	+0	100.5
旅行	188	194	+6	103.3
営業利益*2	1,105	983	▲ 121	89.0
運輸業	842	745	▲ 97	88.5
流通業	30	25	▲ 5	82.5
物販・飲食	29	28	▲ 1	96.5
百貨店	▲ 0	▲ 4	▲ 4	-
不動産業	176	168	▲ 8	95.2
ショッピングセンター	47	52	+4	110.1
不動産賃貸・販売	73	57	▲ 15	78.3
その他	50	41	▲ 8	82.4
ホテル	13	13	+0	100.7
旅行	▲ 4	▲ 3	+0	-

*1 営業収益は、外部顧客に対する売上高(外部売上高)を示しており、各セグメントの内訳は、主な子会社の外部売上高の合計値です。内訳の合計値は、セグメント計と一致しません。

*2 営業利益の各セグメントの内訳は、主な子会社の営業利益の単純合算値です。内訳の合計値は、セグメント計と一致しません。

*3 【 】は分譲売上(外部売上高)(再掲)です。

連結財政状況およびキャッシュフロー計算書

(単位: 億円)

	2016年3月期 期末 A	2017年3月期 2Q期末 B	増減 B-A
資産	28,431	28,069	▲362
負債	19,168	18,384	▲783
純資産	9,263	9,684	+420
長期債務残高	10,018	10,119	+101
【長期債務平均金利(%)】	【2.25】	【2.16】	【▲0.09】
新幹線債務	1,346	1,198	▲148
【新幹線債務平均金利(%)】	【6.28】	【6.39】	【+0.11】
社債	4,949	5,049	+100
【社債平均金利(%)】	【2.00】	【1.98】	【▲0.02】
自己資本比率(%)	30.9	32.8	+1.9
1株当たり純資産(円)	4,534.29	4,748.64	+214.35

	2016年3月期 2Q累計実績 A	2017年3月期 2Q累計実績 B	対前年増減 B-A
営業活動によるキャッシュフロー	882	564	▲317
投資活動によるキャッシュフロー	▲766	▲799	▲33
フリーキャッシュフロー	116	▲235	▲351
財務活動によるキャッシュフロー	32	▲21	▲53
現金及び現金同等物の増減	148	▲256	▲405
現金及び現金同等物の期末残高	1,001	550	▲451

Ⅱ. 2017年3月期 通期業績予想

単体業績予想

(単位:億円)

	2016年3月期 通期実績 A	2017年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/27) 予想 B	今回(10/27) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益	9,542	9,525	9,510	▲ 32	99.7	▲ 15
運輸収入	8,500	8,485	8,460	▲ 40	99.5	▲ 25
その他収入	1,041	1,040	1,050	+8	100.8	+10
営業費用	8,170	8,165	8,175	+4	100.1	+10
人件費	2,333	2,230	2,230	▲ 103	95.6	—
物件費	3,924	3,905	3,905	▲ 19	99.5	—
動力費	441	420	410	▲ 31	92.9	▲ 10
修繕費	1,528	1,530	1,540	+11	100.7	+10
業務費	1,954	1,955	1,955	+0	100.0	—
線路使用料等	269	305	305	+35	113.2	—
租税公課	319	350	350	+30	109.5	—
減価償却費	1,323	1,375	1,385	+61	104.7	+10
営業利益	1,372	1,360	1,335	▲ 37	97.3	▲ 25
営業外損益	▲ 204	▲ 170	▲ 170	+34	83.0	—
営業外収益	63	65	65	+1	—	—
営業外費用	268	235	235	▲ 33	—	—
経常利益	1,167	1,190	1,165	▲ 2	99.8	▲ 25
特別損益	▲ 155	▲ 10	▲ 35	+120	—	▲ 25
特別利益	195	—	—	—	—	—
特別損失	350	—	—	—	—	—
当期純利益	611	820	780	+168	127.6	▲ 40

運輸収入の見通し

(単位:億円)

		2016年3月期 通期実績 A	2017年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
			前回(7/27) 予想 B	今回(10/27) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
新幹線		4,372	4,355	4,322	▲ 50	98.8	▲ 32
在来線	近畿圏	3,022	3,029	3,035	+13	100.4	+6
	その他	1,105	1,100	1,102	▲ 3	99.7	+1
	在来線計	4,127	4,129	4,137	+10	100.2	+7
運輸収入計		8,500	8,485	8,460	▲ 40	99.5	▲ 25

※荷物収入は金額些少のため省略

単体営業費用の見通し

(単位:億円)

科目	2017年3月期 通期見通し			
		対前年	主な対前年増減要因	対前回
人件費	2,230	▲ 103 (95.6%)	・退職金 数理差異償却減 ・人員差 等	—
動力費	410	▲ 31 (92.9%)	・燃料費調整額減 等	▲ 10
修繕費	1,540	+11 (100.7%)	・大規模改修引当金積立 ・構造物対策経費減 等	+10
業務費	1,955	+0 (100.0%)	・システム関係経費増 ・広告宣伝費減 等	—
線路使用料等	305	+35 (113.2%)	・北陸新幹線固定資産税相当額増	—
租税公課	350	+30 (109.5%)	・事業税増 等	—
減価償却費	1,385	+61 (104.7%)	・設備増	+10
営業費用計	8,175	+4 (100.1%)		+10

連結業績予想

	2016年3月期 通期実績 A	2017年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/27) 予想 B	今回(10/27) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益	14,513	14,500	14,455	▲ 58	99.6	▲ 45
営業費用	12,697	12,745	12,725	+27	100.2	▲ 20
営業利益	1,815	1,755	1,730	▲ 85	95.3	▲ 25
営業外損益	▲ 192	▲ 160	▲ 160	+32	83.0	—
営業外収益	78	75	75	▲ 3	—	—
営業外費用	271	235	235	▲ 36	—	—
経常利益	1,622	1,595	1,570	▲ 52	96.8	▲ 25
特別損益	▲ 171	▲ 25	▲ 50	+121	—	▲ 25
特別利益	215	—	—	—	—	—
特別損失	386	—	—	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	858	1,065	1,025	+166	119.4	▲ 40
1株当たり当期純利益(円)	443.53	550.09	529.43	—	—	—

連結業績予想(セグメント別)

(単位:億円)

	2016年3月期 通期実績 A	2017年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/27) 予想 B	今回(10/27) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益*1	14,513	14,500	14,455	▲ 58	99.6	▲ 45
運輸業	9,287	9,257	9,242	▲ 45	99.5	▲ 15
流通業	2,320	2,418	2,358	+37	101.6	▲ 60
物販・飲食	1,449	1,521	1,521	+71	104.9	—
百貨店	791	807	747	▲ 44	94.4	▲ 60
不動産業	1,088	1,044	1,074	▲ 14	98.6	+30
ショッピングセンター	578	599	609	+30	105.2	+10
不動産賃貸・販売*2	492	427	447	▲ 45	90.7	+20
【分譲事業】	【195】	【116】	【136】	【▲ 58】	【69.9】	【+20】
その他	1,815	1,781	1,781	▲ 34	98.1	—
ホテル	365	366	366	+0	100.1	—
旅行	416	428	428	+11	102.8	—
営業利益	1,815	1,755	1,730	▲ 85	95.3	▲ 25
運輸業	1,251	1,223	1,198	▲ 53	95.7	▲ 25
流通業	53	54	49	▲ 4	92.1	▲ 5
不動産業	327	314	319	▲ 8	97.5	+5
その他	224	199	199	▲ 25	88.7	—

*1 営業収益は、外部顧客に対する売上高(外部売上高)を示しており、各セグメントの内訳は、主な子会社の外部売上高の合計値です。

内訳の合計値は、セグメント計と一致しません。

*2 【 】は分譲売上(外部売上高)(再掲)です。

諸元表

(単位:人、億円)

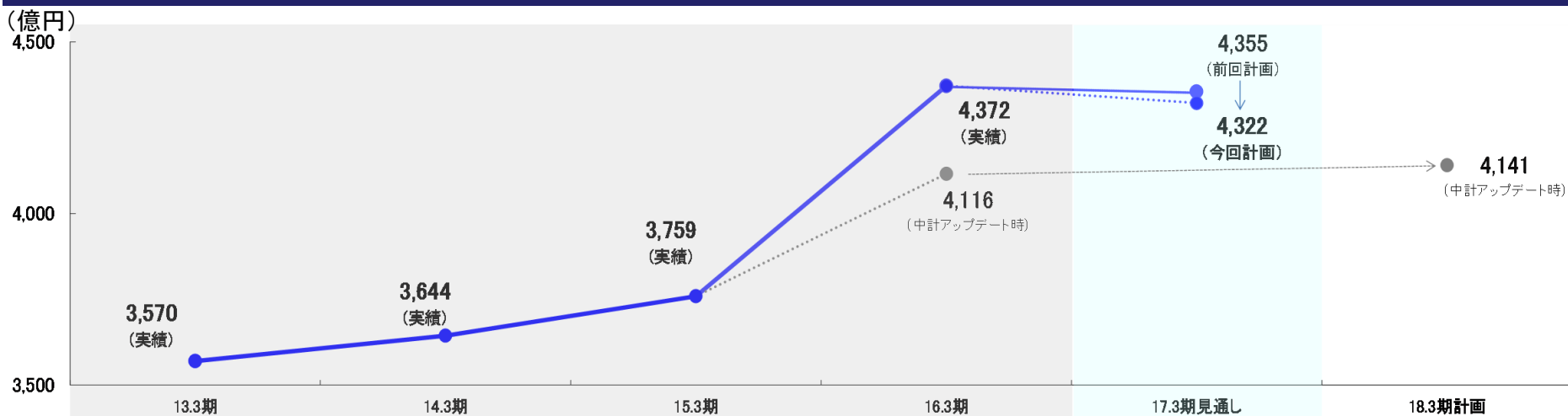
	2016年3月期 2Q累計実績		2017年3月期 2Q累計実績		2016年3月期 通期実績		2017年3月期 通期予想(10/27)	
連結ROA (%)	4.0		3.5		6.4		6.1	
連結ROE (%)	8.0		6.4		10.2		11.2	
連結EBITDA*1	1,854		1,768		3,381		3,370	
連結減価償却費	748		785		1,566		1,640	
連結設備投資(自己資金)	792		724		2,331		1,930	
単体設備投資(自己資金)	675		577		1,987		1,630	
安全関連投資	445		405		1,260		1,045	
1株当たり配当金(円)	65		70		135		140	

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

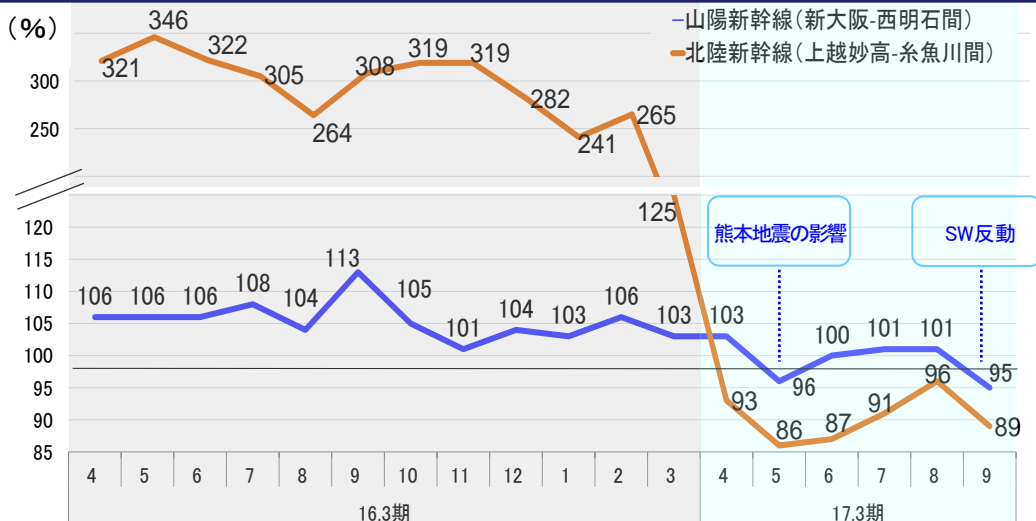
	2016年3月期 2Q累計実績		2017年3月期 2Q累計実績		2016年3月期 通期実績		2017年3月期 通期予想(10/27)	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体
期末従業員数(就業人員)	47,750	26,616	47,303	25,905	47,456	26,555	-	-
金融収支	▲ 119	▲ 113	▲ 111	▲ 106	▲ 233	▲ 226	▲ 218	▲ 211
受取利息・配当金	3	9	3	8	7	15	6	11
支払利息	123	123	114	114	241	241	224	223

Ⅲ. 各事業の取り組み

新幹線運輸収入の推移



月次ご利用動向 (断面輸送量対前年比)



四半期別運輸収入 (前年比)



- ・山陽新幹線：熊本地震の影響等の特殊要因を除けば、過去最高水準の昨年度並みで堅調に推移
- ・北陸新幹線：昨年度の開業効果の反動が大きく、計画を下回って推移

今後の取り組み

競争力の向上

○ 安全性・快適性向上

- ・ 新型車両N700A:4編成追加投入(2017.3期)
- ・ 携帯電話不感地対策:全線完了(2017.3期末予定)
- ・ ATCシステム全面更新(2017春 完了予定)

○ 「セルフ化」「チケットレス化」による利便性向上

- ・ 新しいチケットレスサービスの導入(2017夏予定)
- ・ インターネット予約の利用促進
 - 「WEB早特3」等 ネット商品の拡充



携帯電話不感地対策

観光需要の喚起

○ 観光キャンペーン展開

- ・ 山陽・九州新幹線相互直通5周年キャンペーン
- ・ 山口DC プレキャンペーン(10～12月)
- ・ 九州観光復興キャンペーン(7～12月)への参画を通じた、九州活性化への貢献

○ 観光素材開発

- ・ せとうち広域周遊ルート of 定着化
(7～9月に「せとうちキャンペーン」を実施)

○ シニア向け会員組織「おとなび」会員拡大

○ 訪日観光客需要の獲得 (→P.27)



瀬戸内エリアの豊富な観光資源

今後の取り組み

競争力の向上

○ 快適性・利便性向上

- ・ダイヤのブラッシュアップ(2016.3～)
 - 北陸新幹線「はくたか」の一部列車を速達化
 - 特急「サンダーバード」を増発、輸送力増強と関西から北陸・信州での滞在時間拡大
- ・特急「サンダーバード」の車両リニューアル推進
- ・携帯電話不感地対策(金沢駅～新親不知トンネル西側間)



携帯電話不感地対策

観光需要の喚起

○ 観光キャンペーン展開

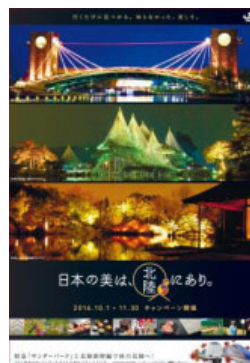
- ・アフターDC「日本の美は、北陸にあり。」(10～11月)
- ・Japanese Beauty Hokuriku キャンペーン(12～3月)
- ・美味しさ五ツ星。北陸新幹線キャンペーン(10～12月)
- ・JR Snow Resort 2016-17 キャンペーン(11～3月)

○ シニア世代に対する観光需要の喚起

- ・会員限定商品「首都圏往復フリーきっぷ」の設定

○ 訪日観光客需要の獲得 (→P.27)

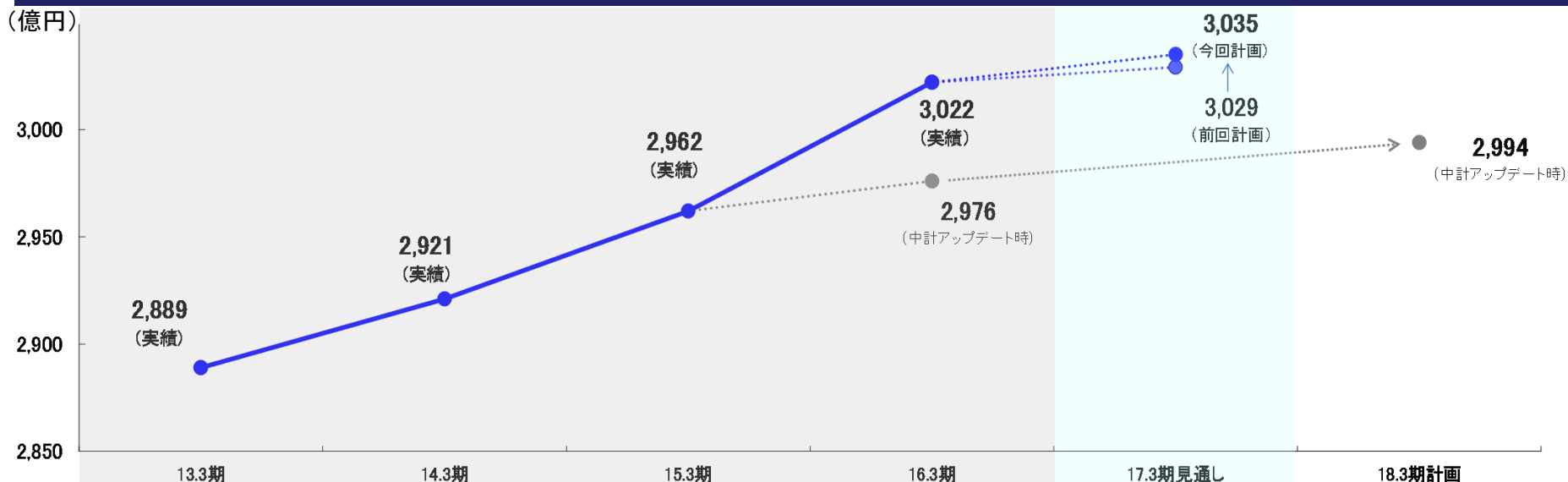
- ・「大阪・東京『北陸アーチパス』」の設定



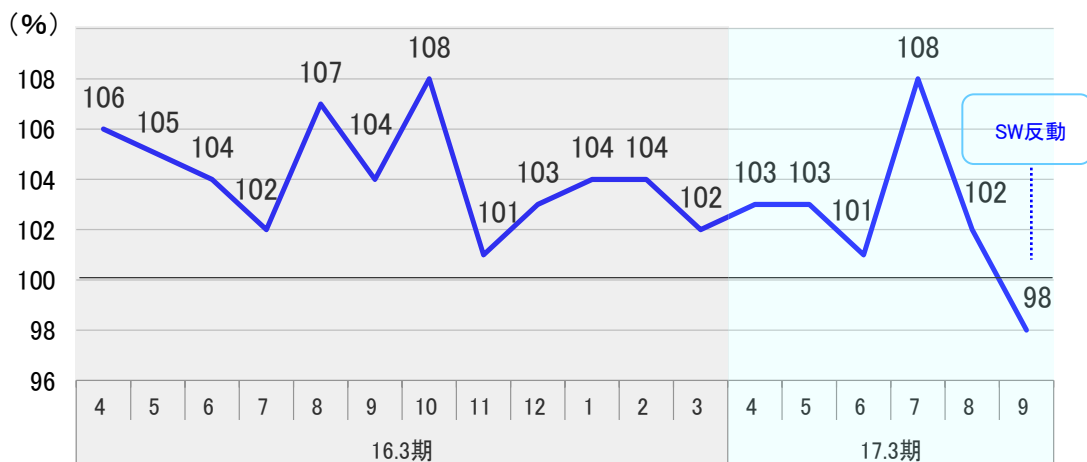
日本の美は、北陸にあり。

アフターDC「日本の美は、北陸にあり。」
(キャンペーンロゴと宣伝用ポスター)

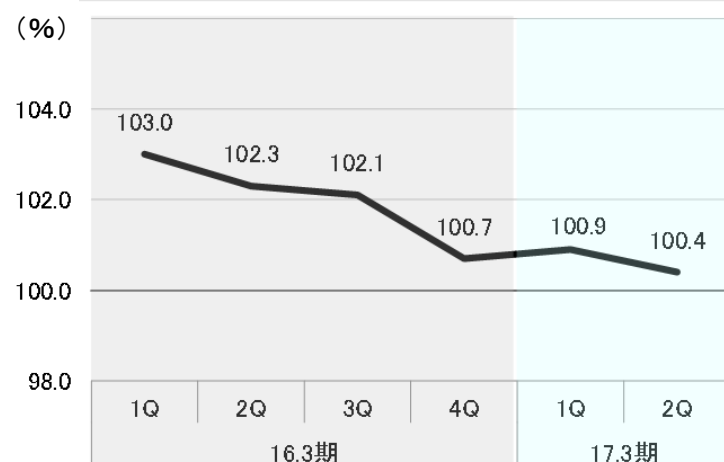
近畿圏運輸収入の推移



月次ご利用動向 (近距離発売枚数対前年比)



四半期別運輸収入 (前年比)



新駅開業等の線区価値向上施策が奏功し、好調に推移した昨年度を上回って推移

今後の取り組み

線区価値向上

- **住みたくなる沿線づくり** ★：大阪環状線改造プロジェクト
 - ・ 新駅設置：JR総持寺、衣摺（2018春予定）
 - ・ 新車投入：大阪環状線★、阪和線
 - ・ 駅改良推進：天王寺駅東口★、茨木駅
- **鉄道ネットワークの充実**
 - ・ おおさか東線北区間（2019春予定）
 - ・ うめきた整備に伴う地下新駅（2023春予定）
- **よりシームレスな移動の実現**
 - ・ ICOCAエリア拡大：草津線（貴生川駅以東、2018春予定）

都市型観光推進

- **沿線観光施設等と連携したご利用拡大**
 - ・ USJ 15周年に伴う共同PR実施
- **京都鉄道博物館の開業効果最大化**
 - ・ JR七条新駅設置（2019春予定）によるアクセス向上
 - ・ 梅小路地区と連携したエリアの更なる賑わい創出
- **訪日観光客需要の獲得**（→P.27）

おおさか東線プロジェクト

【概要】

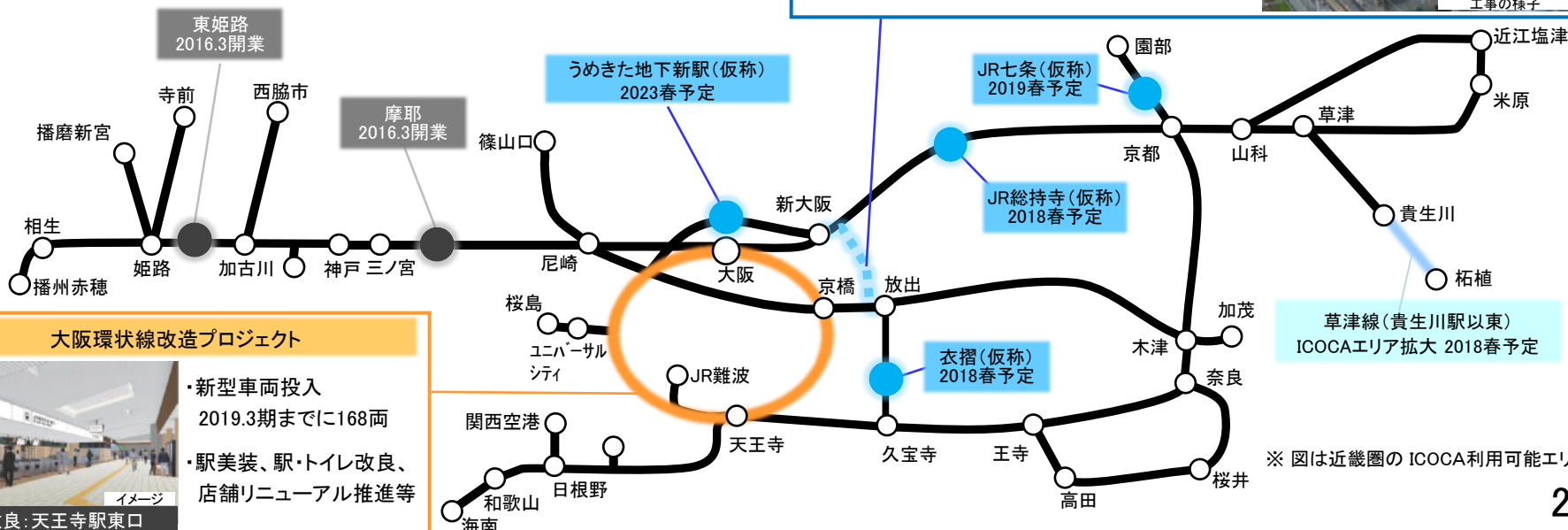
2008年 南区間（放出～久宝寺間）開業
2019年春 北区間（新大阪～放出間）開業予定

【目的】

大阪東部地域の鉄道ネットワークの充実



工事の様子



大阪環状線改造プロジェクト

- ・ 新型車両投入
2019.3期までに168両
- ・ 駅美装、駅・トイレ改良、
店舗リニューアル推進等

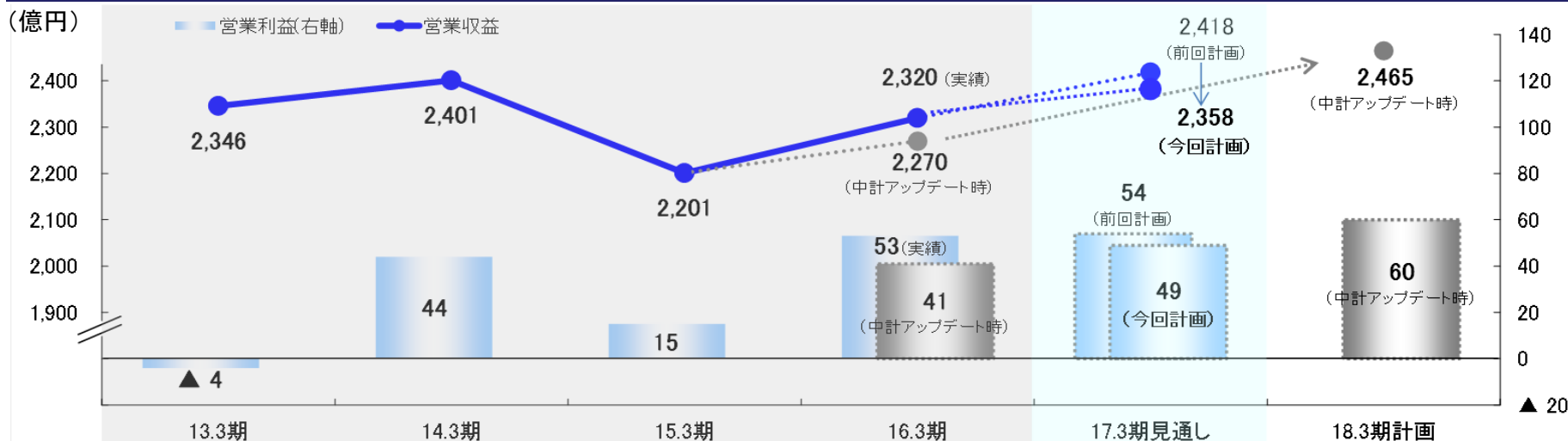


駅改良：天王寺駅東口

草津線（貴生川駅以東）
ICOCAエリア拡大 2018春予定

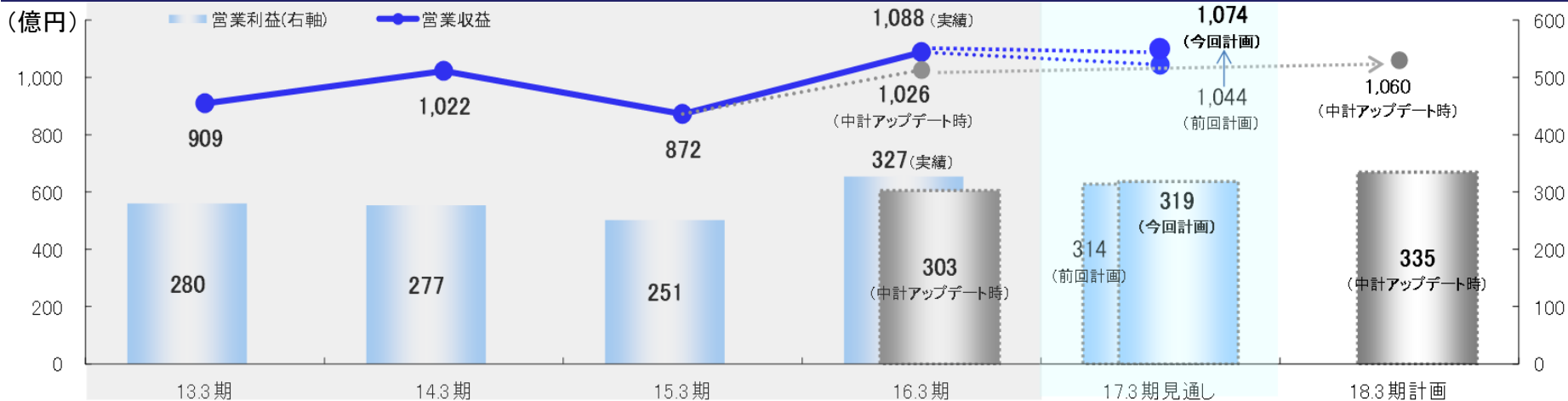
※ 図は近畿圏のICOCA利用可能エリア

流通業



セブン-イレブン提携店舗、宿泊特化型ホテルが好調に推移するも、百貨店が軟調

不動産業



リニューアルしたSC、分譲販売が堅調に推移

今後の取り組み

物販・飲食(キヨスク・コンビニ)

○ セブン-イレブン提携店舗への転換推進

- ・ 転換前と比較した売上は約5割増と好調に推移



北陸3県最大の売場面積(約260㎡)の提携店舗
「セブン-イレブン ハートイン JR金沢駅店」(7月11日開業)

【計画概要】

5年間で約500店舗(新規出店含む)

【進捗状況】

2016年9月末 累計274店舗完了(新規出店含む)

【今後の予定】

〔既存店舗〕 転換を加速し、今年度概ね完了予定

〔新規出店〕 来年度以降も継続して拡大

⇒ 約500店舗を目指す

物販・飲食(宿泊特化型ホテル)

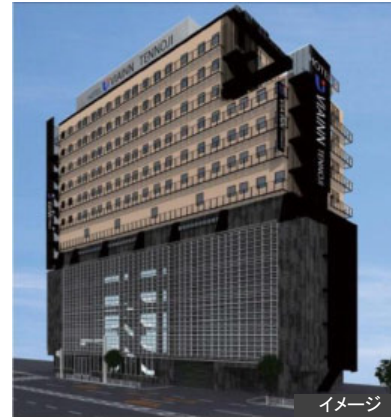
○ 新規出店 2店(389室) ⇒ 累計19店(4,661室)

- ・ (仮称)ヴィアイン天王寺(2017春予定)

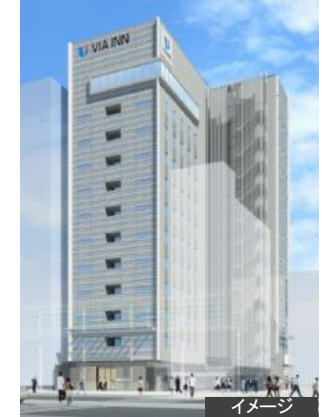
客室数:172室

- ・ (仮称)ヴィアイン梅田(2017夏予定)

客室数:217室



イメージ
(仮称)ヴィアイン天王寺



イメージ
(仮称)ヴィアイン梅田

百貨店

○ リニューアルの推進

- ・ LUCUA1100内isetanショップ

今後の取り組み

SC(ショッピングセンター)

○ リニューアルの推進

- ・ 新大阪駅SC「アルデ」グランドオープン(2017春予定)

不動産賃貸

○ 駅及び社宅跡地の開発推進

- ・ 大津駅リニューアル「ビエラ大津」(2016.10開業)
- ・ 金沢市社宅跡地 健康増進複合施設(2017.4予定)

○ 沿線外・エリア外への積極展開

- ・ 名古屋名駅南ホテル開発(2017秋予定)
- ・ 広島八丁堀NKビル開発(2017冬予定)



イメージ

ビエラ大津



イメージ

金沢市社宅跡地 健康増進複合施設

不動産販売

○ 住宅分譲事業の推進

- ・ 新規分譲予定物件(2016年度以降)

マンション名	所在地	引渡時期	総戸数
グレースシアシティ川崎大師河原※	神奈川県川崎市	2016年6月	558戸
ブランズシティ天神橋筋六丁目※	大阪府大阪市	2017年3月	420戸
プラウドシティ塚口マークフォレスト※	兵庫県尼崎市	2017年3月	587戸
京都桂川つむぎの街ブライトスクエア※	京都府京都市	2017年3月	404戸
J.GRAN THE HONOR 下鴨糺の杜	京都府京都市	2017年6月	99戸
ジェイグラン甲子園口レジデンス※	兵庫県西宮市	2017年8月	16戸
イニシアブラン住之江公園※	大阪府大阪市	2017年9月	160戸

※他社との共同事業

引渡時期は予定、総戸数はシェア勘案前



イメージ

グレースシアシティ川崎大師河原



イメージ

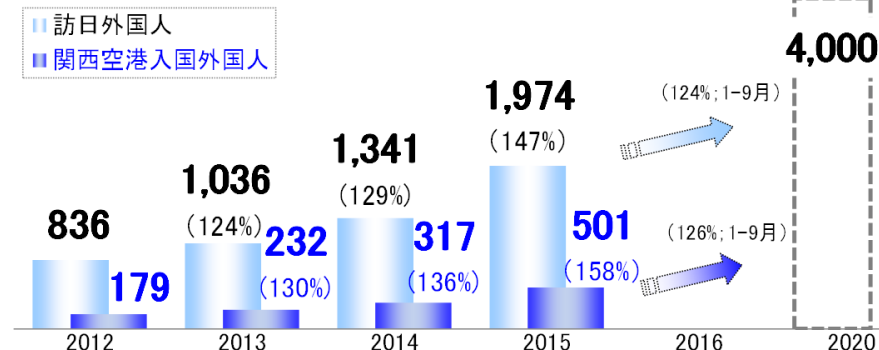
J.GRAN THE HONOR 下鴨糺の杜

○ 不動産賃貸・販売業の今後の中長期的な成長に向けた取り組み (→P.32)

事業分野をまたがる取り組み：訪日観光客需要の獲得

訪日外国人数、関西空港入国外国人数推移（暦年）

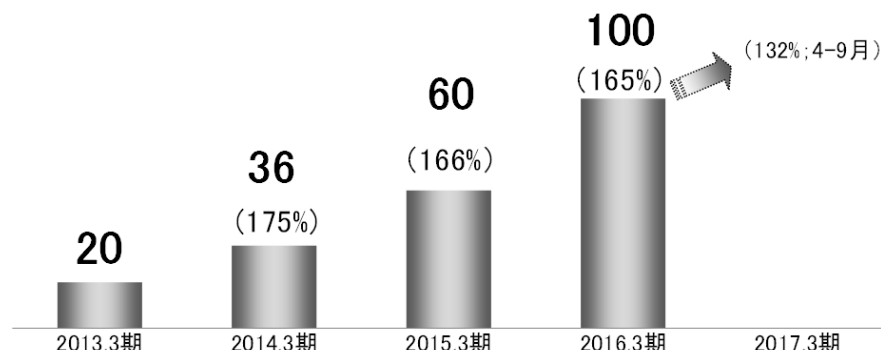
単位：万人（）内は対前年比



【出典】日本政府観光局(JNTO)、法務省入国管理局

訪日観光客ご利用者数(※)推移（年度）

単位：万人（）内は対前年比



上期実績

- ① 訪日観光客ご利用者数(※) 60万人 (対前年+15万人)
- ② 連結営業収益 +11億円 (対前年)

2017.3期目標

- ① 訪日観光客ご利用者数(※) 125万人 (対前年+25万人)
- ② 連結営業収益 +25億円 (対前年)

今後の取り組み

「西日本各エリア」への誘客拡大、「JR西日本グループ」の利用拡大

○ 広域観光ルートの開発・整備

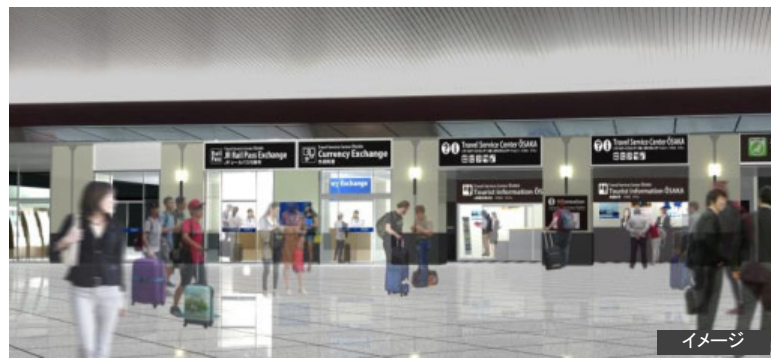
- ・「大阪・東京『北陸アーチパス』」、「瀬戸内エリアパス」等発売
- ・関西アクセスの充実：特急「はるか」増発 等

○ ターミナル駅・商業施設等の受入態勢充実等

- ・大阪駅に「トラベルサービスセンター大阪」開設(2017.3予定)
- ・関西空港駅の販売機能の強化(2017.3予定)

○ プロモーション強化

- ・現地事務所(上海、シンガポール)を活用したターゲットの拡大 等

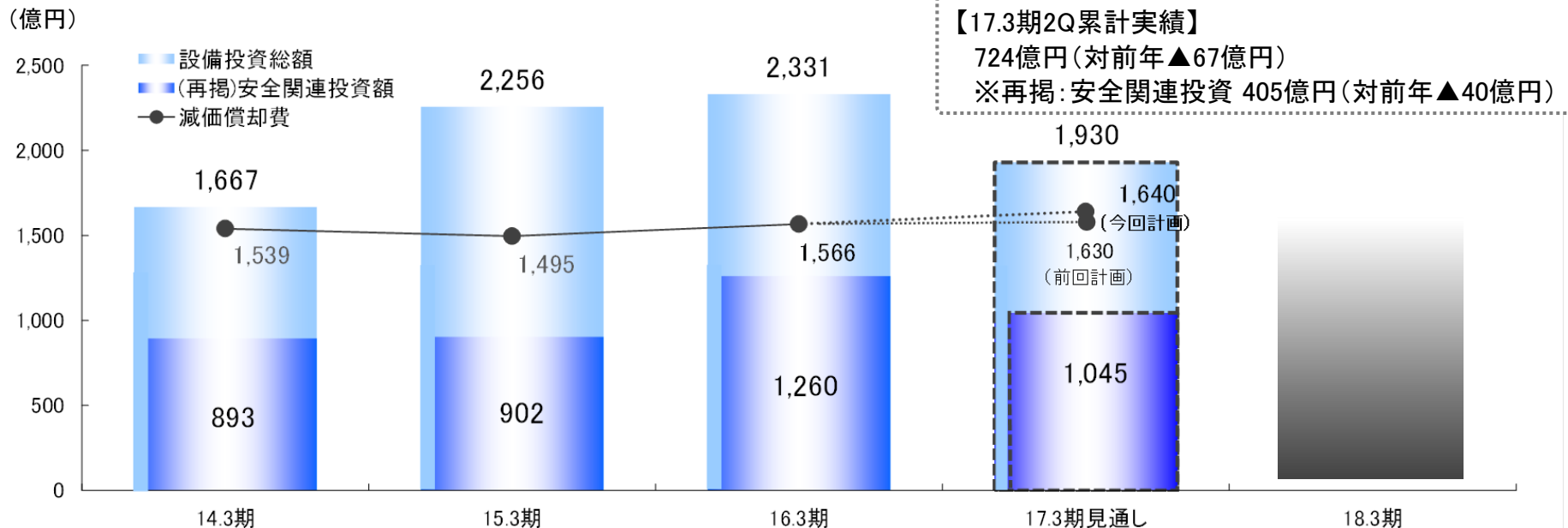


大阪駅に新設する「トラベルサービスセンター大阪」

(※) 訪日観光客ご利用者数：インバウンド専用商品ご利用者数(当社エリア内での販売、引き換え分)

IV. 設備投資計画、株主還元

中計期間(2014年3月期-2018年3月期) 設備投資推移



中計期間 設備投資総額

(単位:億円)	中計アップデート (2015年4月時点)
連結	9,600
成長投資	2,600
事業の継続的運営に必要な投資	7,000
安全関連投資	4,800
単体	8,200

2017年3月期の主な設備投資案件

○ 成長投資

- ・ 新駅設置工事
- うめきた地下新駅 等
- ・ シームレス化
- ICOCAエリア拡大
- ・ 生活関連サービス事業拡大
- セブン-イレブン提携店舗への転換
- 「吹田グリーンプレイス」開発 等

○ 事業の継続的運営に必要な投資

▼ 安全関連投資

- ・ 車両取替・改造
- 山陽新幹線N700A
- 近畿圏(大阪環状線・阪和線)
- ・ 保安・防災対策、地上設備取替
- 地震・津波対策
- 山陽新幹線ATCシステム全面更新
- 在来線新保安システム

▼ その他 CS向上、バリアフリー 等

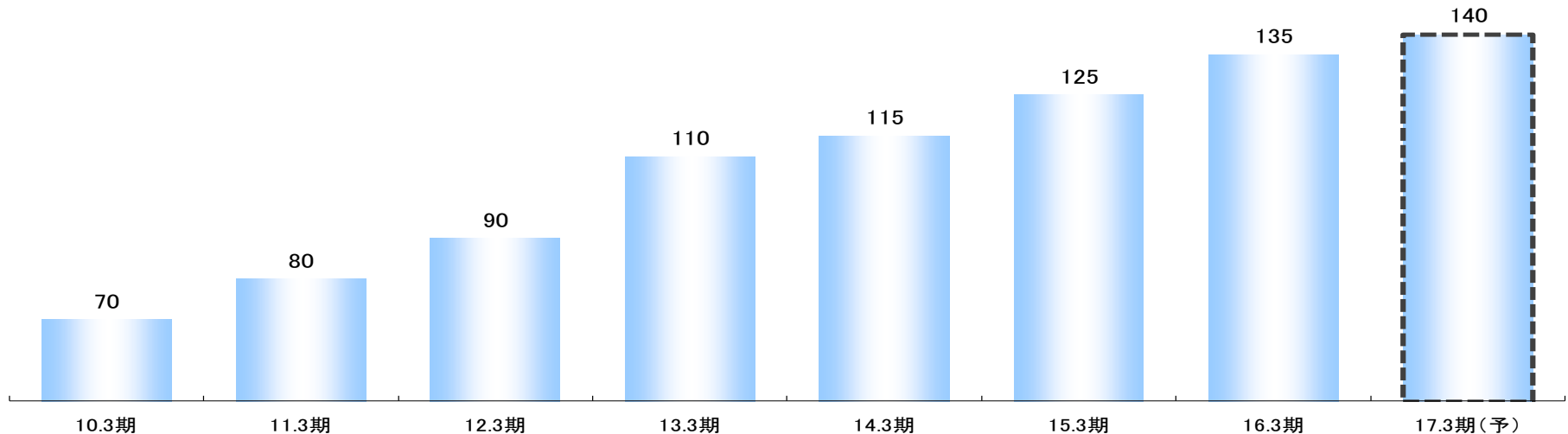
株主還元方針

- 長期安定的な株主還元を重視する観点から、引き続き、自己資本を勘案した株主還元を実施。
- 具体的には、本計画の達成状況を踏まえ、

2018年3月期に、連結ベースでの「自己資本総還元率(※)」3%程度を目指す。

※自己資本総還元率(%) = (配当総額 + 自己株式取得額) ÷ 連結自己資本 × 100

1株当たり年間配当額の推移 (単位/円)



7期連続増配(予想含む)、最終年度の自己資本総還元率3%達成に向けて着実に還元充実

(単位: 億円)

	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期
	中計アップデート (2015年4月時点)	実績	前回計画 (7/27)	今回計画 (10/27)	中計アップデート (2015年4月時点)
営業収益	13,915	14,513	14,500	14,455	14,230
運輸業	8,956	9,287	9,257	9,242	9,025
流通業	2,270	2,320	2,418	2,358	2,465
不動産業	1,026	1,088	1,044	1,074	1,060
その他	1,663	1,815	1,781	1,781	1,680
営業利益	1,485	1,815	1,755	1,730	1,570
運輸業	1,033	1,251	1,223	1,198	1,050
流通業	41	53	54	49	60
不動産業	303	327	314	319	335
その他	140	224	199	199	140
経常利益	1,300	1,622	1,595	1,570	1,410
当期純利益	815	858	1,065	1,025	915
運輸収入	8,180	8,500	8,485	8,460	8,205
ROA	5.3%	6.4%	6.1%	6.1%	5.5%
ROE	9.8%	10.2%	11.6%	11.2%	9.8%
EBITDA	3,070	3,381	3,385	3,370	3,255

(注)・営業収益は外部顧客に対する売上高

・セグメント別営業利益はセグメント間消去前

・運輸収入は運輸業のうちJR西日本の鉄道事業の旅客運輸収入

V. 菱重プロパティーズ株式会社の株式取得

対象会社

菱重プロパティーズ株式会社
株主:菱重ファシリティ&プロパティーズ株式会社 100%出資

取得価格

970億円

概要

- ・三菱重工業株式会社（以下「三菱重工」）が100%出資する菱重ファシリティ&プロパティーズ株式会社（以下「菱重F&P」）から、菱重プロパティーズ株式会社（以下「菱重プロパティーズ」）の発行済株式総数の70%を取得することについて株式譲渡契約を締結し、今後、三菱重工と当社が相互協力のもと、菱重プロパティーズの事業価値向上を図る。
- ・菱重F&Pの不動産事業について、菱重F&Pを分割会社、菱重プロパティーズを分割承継会社とした会社分割を2017年1月1日実施。菱重プロパティーズの株式は菱重F&Pが70%、三菱重工が30%ずつ保有。当社が同年2月1日、菱重F&Pが保有する菱重プロパティーズの株式70%を全株取得。

スケジュール

10月31日：株式譲渡契約締結
2017年2月1日：株式取得日

主な財務指標※
(16.3期)

売上高：約250億円
営業利益：約40億円

※菱重F&Pにおける対象会社の事業を切り出した想定値

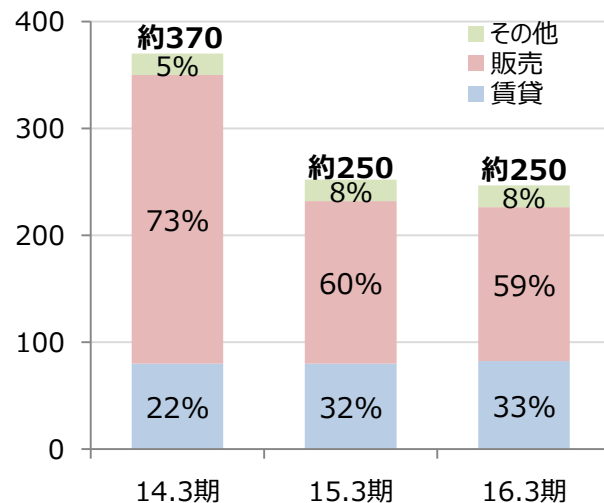
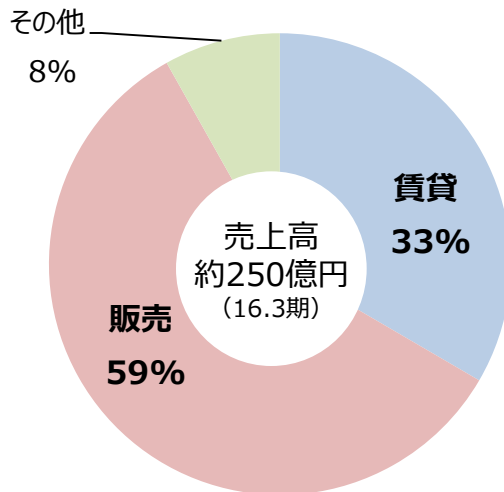
会社概要

概要

名称	菱重プロパティーズ株式会社
株主	菱重ファシリティ&プロパティーズ株式会社 100%出資
所在地	東京都港区
設立	2016年7月15日
事業内容	不動産賃貸事業、不動産分譲事業等

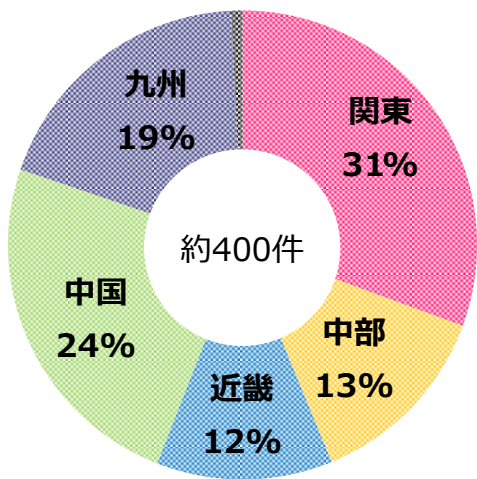
売上高※ (億円)

※菱重F&Pにおける対象会社の事業を切り出した想定値

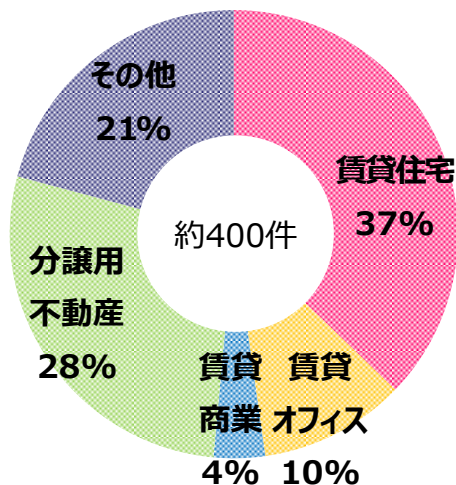


物件概要

地域別



用途別



賃貸住宅 (関東)



開発用地 (関東)



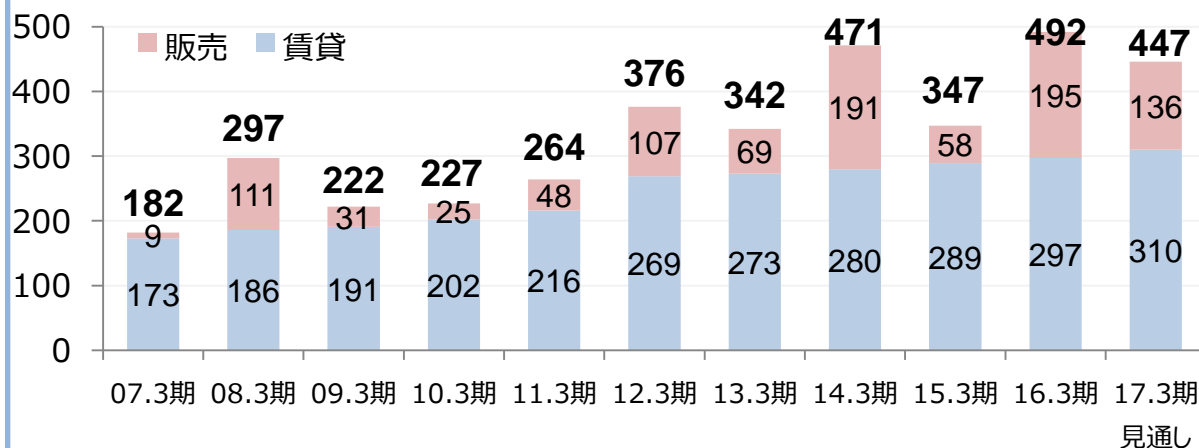
賃貸オフィス (関東)

株式取得の背景と目的

これまでの取り組み

- ・当社は会社発足以降、高架下開発や駅ビルなどを展開し、着実に実績を積み重ね成長
 賃貸事業：オフィスNKビル、商業施設「ビエラ」、クリニックビルなど立地特性に応じたMDを展開
 販売事業：当社グループブランド「ジェイグランシリーズ」を立ち上げ、関西を中心に幅広く展開
- ・最近では、賃貸・販売が一体となった大規模な駅から始まる街づくり事業などのプロジェクトへも参画している他、PMやFM事業等のストック事業にも進出

不動産賃貸・販売【営業収益の推移（億円）】



〔最近の取組事例;塚口駅前開発〕



- ・賃貸：駅ビル「ビエラ塚口」開業（2016.4）
- ・販売：他社と共同開発（2016.3一部入居開始）

見通し

（イメージ）

今後の成長戦略

- ・鉄道とのシナジー効果が見込める当社エリア内の駅近・沿線等の開発が基本
- ・人口流入により、今後も底堅い需要が見込まれる首都圏等のエリア外にも積極的に進出
- ・賃貸事業の拡大により、安定した収益基盤を築き、販売事業も厳選して展開
- ・開発物件数の増をストック事業の強化につなげ、分譲・賃貸・ストック事業のトータルで成長を加速

株式取得の目的

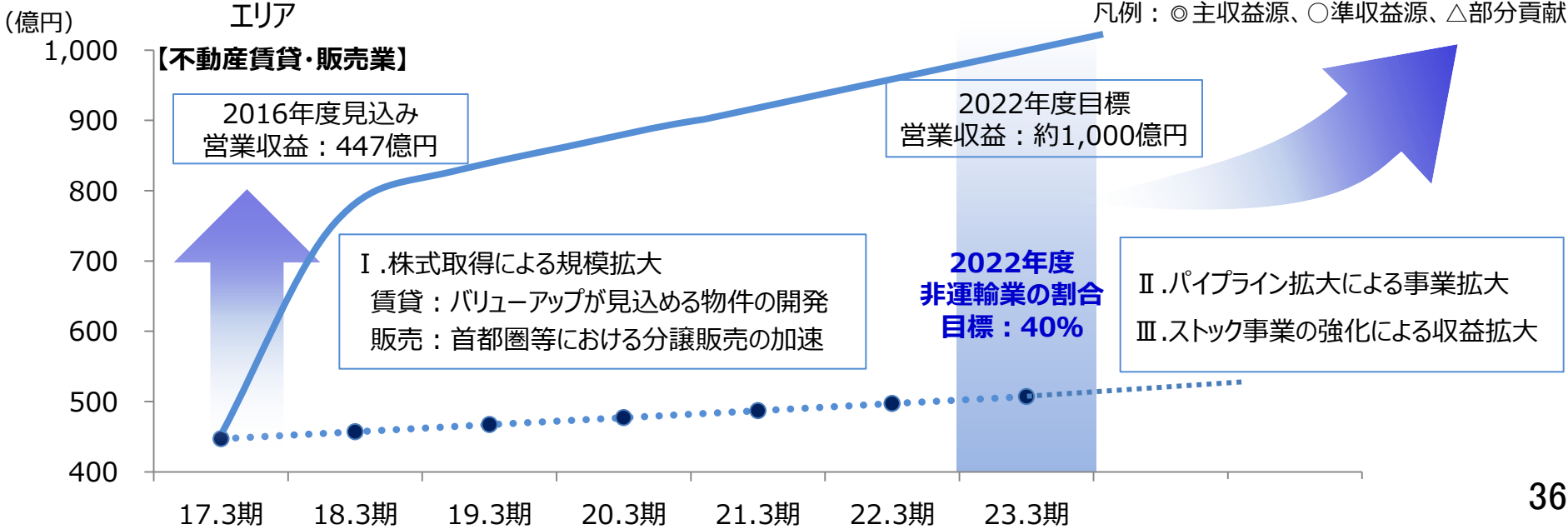
- ・首都圏等における賃貸・販売事業拡大の足掛かりとなる拠点の獲得
- ・首都圏等の開発用地・物件の一括取得による事業規模拡大
- ・当社エリア内における賃貸・販売事業の拡大

株式取得後の姿

成長のイメージ（ポートフォリオ・営業収益）

事業	現状				株式取得時				目指す姿			
	当社内		エリア外		当社内		エリア外		当社内		エリア外	
	駅近 沿線	沿線外	駅近	その他	駅近 沿線	沿線外	駅近	その他	駅近 沿線	沿線外	駅近	その他
販売	◎	△	△	—	◎	△	○	—	◎	○	◎	—
賃貸	◎	○	—	—	◎	○	○	—	◎	○	◎	—
ストック	△	△	—	—	△	△	—	—	○	○	○	—

凡例：◎主収益源、○準収益源、△部分貢献



将来の見通しに関する注意事項

- 本スライドは、JR西日本の事業、産業及び世界の資本市場についてのJR西日本の現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、さまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。通常、このような将来への展望に関する表明は、「かもしれない」、「でしょう」、「予定する」、「予想する」、「見積もる」、「計画する」、又はこれらに類似する将来のことを表す表現で表わされています。これらの表明は、将来への予定について審議し、方策を確認し、運営実績やJR西日本の財務状況についての予想を含み、又はその他の将来の展望について述べています。
- 既に知られた若しくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、かかる将来の展望に対する表明に含まれる事柄とも大いに異なる現実の結果を引き起こさないとも限りません。JR西日本は、この将来の展望に対する表明に示された予想が結果的に正しいと約束することはできません。JR西日本の実際の結果は、これら展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。
- 実際の結果を予想と大いに異なるものとする重要なリスク及び要因には、以下の項目が含まれますが、それに限られるわけではありません。
 - 財産若しくは人身の損害に関する費用、責任、収入減、若しくは悪い評判
 - 経済の悪化、デフレ及び人口の減少
 - 日本の法律、規則及び政府の方針の不利益となる変更
 - 旅客鉄道会社及び航空会社等の競合企業が採用するサービスの改善、価格の引下げ及びその他の戦略
 - 地震及びその他の自然災害のリスク、及び情報通信システムの不具合による、鉄道その他業務運営の阻害
- 本スライドに掲げられたすべての将来の展望に関する表明は、2016年11月1日現在においてJR西日本に利用可能な情報に基づいて、2016年11月1日現在においてなされたものであり、JR西日本は、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。
- なお、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故に関する今後の補償費用等については、現時点で金額等を合理的に見積もることが困難なことから、本スライドの見通しには含まれておりません。

当資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。

JR西日本ホームページ「IR情報」 <http://www.westjr.co.jp/company/ir/>